

# 堰堤補強に伴う希少魚類保全の取組み

玉野総合コンサルタント株式会社 流域技術部 加藤義規 他

## ○キーワード

天然記念物、文化庁協議、有識者ヒアリング、施工計画、モニタリング

## ○概要

建設後 50 年以上が経過した堰堤について、補強対策が設計されていた。補強対策の実施段階において天然記念物である“ネコギギ”が確認された。この堰堤補強工事に伴い生息環境への影響が懸念されたネコギギについて保全対策を追加検討し、文化庁協議を経て、治水・利水に加え環境にも配慮した補強計画として見直しを行った。

## ○技術ポイント

文化財の現状変更許可の円滑な申請・許可のためのポイントを以下に示す。

- ① 協議期間の短縮化のための有識者との協働
- ② 天然記念物の確実な保護・一次避難の実施
- ③ 堰堤補強を踏まえた保全対策工の実施
- ④ 施工後のモニタリング提案

河川改修において天然記念物が確認された場合、同じ生物を対象にした場合でも、協議先が文化庁となり、手続きも市、県、国と段階を踏む必要があり、十分な事前準備が必要である。

## ○図・表・写真等



天然記念物ネコギギ（確認个体）

潜水目視調査により確認された个体。事前調査による現地生息状況の把握は、整備前後の評価項目としても有効な情報となる。



ネコギギ避難予定地

ネコギギは遺伝子レベルでの種の保全が求められている。一次避難もできる限り、生息場所から近い場所での生息適地を選定することが望まれる。これら生息地の選定にも有識者の助言は欠かせない事項である。